

病室に星空再現，重症心身障害者ら満喫 国立甲府病院でプラネタリウム

普段、星空を見ることができない長期入院の重症心身障害者らにプラネタリウムを見てもらおうと、国立病院機構甲府病院（甲府市天神町）で、移動式のドームやプロジェクターを使った上映会が開かれた。長期入院している 121 人が、闇に浮かび上がった輝く星座や惑星を存分に満喫した。

ライブ事業を手掛ける星空工房アルリシャ（高橋真理子代表）が主宰。これまでに長野県、名古屋市、兵庫県など県内外 7 か所で実施してきた。

甲府病院には重症心身障害病棟があり、そこでのプラネタリウム上映は初。この日は、1 階の大部屋に午前 9 時半から、高さ 4 メートルのエアドームを設置してオリジナルプログラムを 3 回上映。また、移動が困難な患者のために、各階ごとに投影機を移動させて開催した。

月の模様や夏の大三角形、織り姫、ひこ星、そして、地球が属する太陽系や天の川銀河を映像ソフトを使ってスクリーンに映しながら、高橋さんが解説した。実際に撮影したオーロラができる仕組みも紹介した。

高橋さんは「こちらから外に出ていかないと星空が届かない人がいる。普段星空を見られない人にこそプラネタリウムは価値がある」と話した。同病院の岩崎真由美保育士は「笑い声も出ていたので、楽しんできたのだと思う。利用者のために誕生会など日常のイベントを行うが、限界があるので外部の人に協力していただけるのはありがたい」と感謝していた。

（毎日新聞・山梨版 2014 年 9 月 11 日）